

この間の所は、インセンティブ税制と私は言っていますが、自動車税のグリーン化をして、燃費のいい、きれいなエンジンの車に買い換えるようになりました。あれと同じように、社会的に安い所へ住んでくれる人には税金を安くする。中心市街地をきちんと直してくれる地主さんには固定資産税を半額にする。3つ星、4つ星にしまして、半額免除、全額免除とするなどして社会的に畳み込んでいく。

私の研究室では幾つかの地域について計算しております、これは飯田市です。右側が1人当たりの社会的コストです(P.30 資料No.17参照)。総額でいうと都心部が大きいのですが、右側の図を見ますと都心部より周辺部の方が高い。名古屋ももっと真ん中に来たらどうかということをやりますと、実は中心部には7万人、220万のうち3%しか住んでないのです。1割くらいは住んだ方がいいのではないかというシミュレーションをやってみますと、皆さんが中に入ってくれますと不要な交通量が減って、NOxなどの排ガスも減ります。そういうことも計算してみると、外をやめてインフラの投資を放棄しても、計算上十分という結果になっています。実際にはもっときめ細かくやっていかなくてはなりません。

**【小出氏】** ありがとうございます。人口が減少するこれからの社会では、そろそろ引っ越しの準備をしないと持たない。それくらいむだな公共投資が行われているという、大変わかりやすいご説明でありました。

続いて谷岡先生と伊藤先生に話していただきたいのですが、谷岡さんにはこれからの成熟社会にふさわしい地域とはどのようなものかについてお話しいただきたいと思います。

**【谷岡氏】** 風土とよく言われます。国土という言い方もしますが、私は風土という言い方が好きです。風土という言い方をしたときには、土の部分と風の部分があると思うのです。

土の部分は、先ほどそれが実の部分だと申し上げたのですが、人間活動という点で考えてみると風の部分がとても大事なのだろうと。今朝のテレビを見ておりましたら、昨日のキ

ューパとの野球の試合は43.4%の視聴率で、瞬間的には50%以上になった。これだけの人々が夢中になって、街から人影が消えるくらい状況になった。それが人々にとって大事なことからだと思うわけです。

昨日も会う人ごとに「よかった」「よかった」と、お互い何がよかったのか、突き詰めて考えると誰も儲かっていないし、むしろビールで乾杯したらお金が減ってしまうのですけれども、でも「よかったね」といってビールでお祝いしたい気分になる。これが風なのだろうと思います。

私自身20年間、学長として大学づくりをしていて気が付くことなのですけれども、最初は定員増を行ったり、学部学科の割り振りを変えたり、システムを変えたり組織づくりをやったり、ありとあらゆることをやりました。それは国で言う国土の配置をどうするか、どういう設備をそこに持ってくるかと、そういうことであろうと思うのです。

ところが、人の動きは風なのだろうと私は思うわけです。いわゆる校風と言われるものが死語になってしまったのですけれども、大学はやはり学風があるのではないかと。大学に吹いている風というものがあるのではないだろうか。教室で教えることはできるのだけれども、大学生の人格を育てるのは、先輩から後輩へ伝えられ、そこで生活している間に身に付く、ある種のスピリットのようなもの。これが風なのだろう。

地域づくりをすることを考えた場合、見やすいものとしてハードを考えることも重要なのですけれども、そこに営まれ、そして人々の心に風を吹かせる、竜巻を起こす何か、おそらくそれが育むものを私たちは文化と言うのだろうと思います。ですから、いかに空気、風、雰囲気を作っていけるのかを、風土として、土を作る部分と同じくらい大事に考えていかなければいけないのだろうと思います。

**【小出氏】** ありがとうございます。私もその意見には大賛成でありまして、国土形成というよりも風土形成の方がいいのではないかと。たとえば「景観」というとなぜか骨っぽい、痩せた言葉だと思えますけれど、「風景」というと、そこに人間の情感が

入り、歴史が入り、いろいろなものが入る。風というのは本当にそのとおりだと思います。

伊藤先生からは、風までくめた中部らしさといえますか、これからのことをお話ししたいと思います。

**【伊藤氏】** 先ほど、中部40年を振り返ってみました。では、これから40年先に中部はどんな形になっているのだろうか、という発想をしてみるのも面白いのではないかと思うのです。それが今日の「中部の新しいかたち」という中の一つの考え方ではないでしょうか。

私の専門は地理学です。特に都市地理学で、都市の構造や機能を勉強しています。したがって都市計画とか国土計画の理論というかデータづくりみたいところが私の専門で、しょっちゅう地図を描いたり統計資料を分析したりしていますが、中部は40年後にはすごい所になるのではないかと感じております。あまり持ち上げてばかりいてもいけないのかもしれませんが、正直、そんな感じを持ちます。

日本列島を思い浮かべていただきたいのですが、関東平野があり、その前面に東京湾があります。伊勢湾があり、その奥に濃尾平野があり、名古屋があります。もう少し西に行きますと、大阪湾があって、京都、大阪、神戸があります。東京湾から大阪湾まで、わずか600kmなのです。もし日本列島が全然違う形だったら、たとえば東京湾が青森県にあって、伊勢湾が富山県に向かって開いていて、大阪湾が広島あたりにあったとしたら、今の日本の発展はたぶんなかったと思うのです。



しかも、東京湾、大阪湾、伊勢湾とその奥に広大な平野がある。こういうロケーションは外国でもほとんど例がないと思います。その真ん中が伊勢湾と中部なのです。40年前に中部圏計画の初期の頃にお手伝いしたとき、中部圏計画は40～50年経ったら大改定をしなくては行けないだろう、という意見を述べました。そのときに作られる新しい日本列島の図は東京湾と伊勢湾と大阪湾を横につないで一つにくっつけてしまう。そうしますと、日本列島のちょうど真ん中に3大都市が数珠のように並んでいる。ここをどう使っていくかが日本のこれからの姿ではないか。私は中部の可能性に期待して中部圏計画に大賛成して、一生懸命お手伝いをしてきたわけです。

3大湾を横に連ねて、その奥にある3大平野を上手に使いながら、日本を上空から眺めると、その他の地域はたぶん一括りになると思います。その一括りの中に地方都市が点々とあって、それなりの役割を果たしている。つまり日本列島は3つの大都市圏とそれ以外との2つに色分けできる。そういう段階ではたぶん県などという境界はいらぬ。今ある中央官庁のお役所も大編制をしていただかなければいけない。たぶん40年経つとそんなことが現実になんて近くなるのではないかと。

実は私は東京生まれの東京育ちなのです。箱根から先は異国だと思っていたのですが、三重大学に3年間だけ行ってこいと言われて赴任して、こんないい所が日本にあったのかと思って、定年まで三重大学にいることになってしまったのですけれども、私が東京を離れて三重大学に就職を決めたのは、新幹線があったからです。新幹線ができた年に私は三重大学に赴任したのですが、新幹線がなかったら私は静岡より東京寄りの所で就職口を探していたと思います。

今後40年経ったら新幹線はもう古い。リニア新幹線が走っているべきだと私は思っています。東京から大阪まで60分、名古屋—東京は40分。名古屋—大阪は20分。これは完全な通勤圏内です。そこに3つの湾があって、3大都市がある。この姿は日本の正しい姿ではないか。夢みたいなことを言っているようですが、そのことに私たちは近づきつつあると思っています。そのくらいの図柄を描きながら中部はどうあるべきかという